

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	苫小牧市			代表者名	岩倉 博文
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	総務部 ICT推進室	連絡先電話番号	0144-32-6196
担当者役職	主幹	担当者氏名	川合 基央	連絡先E-mail	
住所	059-8722 北海道苫小牧市旭町4丁目5番6号				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	
			連絡先E-mail

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修(単独)	事業名	デジタル人材育成
概要	庁内DX等に対応し得る職員の人材育成及びデジタルマインドの醸成を目的とした研修・ワークショップ		
支援を求める分野	人材(DX推進のための機運の醸成) 人材(DXに関する知識習得・研修・育成)		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日(申請書より)	支援内容(申請書より)	開始時刻	終了時刻	内休憩時間(分)
	令和6年11月7日	事前打合せ(オンライン)	16時00分	17時00分	
				活動時間(分)	60
2-2. 派遣場所	会場名	オンライン	最寄駅	オンライン	
	所在地	オンライン	最寄駅からの交通手段	オンライン	

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	村越 功司
評価	大変よい
上記評価の理由(どのようなところがよかったか等詳細に)	今回の支援の目的は、1月17日にアドバイザーに実施してもらったDX意識醸成研修の擦り合わせであったが、話の中で、意識醸成の次のステップとなる人材育成について、浜松市の取組内容を聞くことができ大変参考となったとともに、本市において、どのように進めていくかを考えるきっかけとなった。
アドバイザーへの要望事項	1月17日よりしくお願いします。本支援の先の話となりますが、浜松市のDX人材育成研修業務は、外部委託をされているのとことでしたが、どのような仕様で公募し、具体的な研修カリキュラムはどのようなものがあるのかを教えてください。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性(職員、一般、企業等)について【自由記述】	合計人数	2人
	属性	企業・団体	その他(学生など)
	自治体職員	住民	
	人数	2	0
		0	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点(具体的に記入下さい)	<ul style="list-style-type: none">DXを自分事として意識させることが課題デジタルへの苦手意識からDXアレルギーがあるRPAやオンライン申請などのサービス導入はされているが、活用する人材が少ない意識醸成の次のステップとして、DX人材育成や推進体制を具体的にどのように進めていくかわからない
支援により目指す成果(具体的に記入下さい)	<p>組織全体にDXマインドが定着し、変革を行っていくのが当たり前前の風土を醸成すること。</p> <ul style="list-style-type: none">その管理職のマインドチェンジ「DX=ゲームチェンジ」という考え方を管理職にDXに対する心理的ハードルを下げ、身構えをほくしてもらうとともに、自身が取組を始めたり、部下の取組を見守るを切掛けとする

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	1月に実施する管理職向けDX意識醸成研修の目的及び段取りの確認をしました。 また、浜松市におけるDX人材育成の取組内容を教示いただき、本市における人材育成の取組について教示いただいた。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	意識醸成の研修については、昨年度の実施イメージがあるので、1月の実施により管理職のマインドが変わり、組織全体におけるDX推進意欲が高まることを期待したい。 これまで意識醸成の次のステップについては、具体的なイメージが持てていなかったが、浜松市の取組内容を聞いて、DX人材を育成する流れが何となくイメージすることができた。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	④人材育成のカリキュラムやツールを策定できた
	<1月17日の研修・ワークショップの概要> * テーマ：庁内DX等に対応し得る職員の人材育成及びデジタルマインドの醸成を目的とした研修・ワークショップ * 管理職のマインドチェンジ * 「DXニゲームチェンジ」という考え方を管理職に * DXに対する心理的ハードルを下げ、身構えをほぐしてもらうとともに、自身が取組を始めたり、部下の取組を見守るを切っ掛け * 対象者：管理職（部長職、次長職、課長職） * 人数：部長職15人、次長職30人、課長職105人 ✓ 確認項目 * 会場は去年と同じ * 今年はタブレットを事務局が貸す（資料もそこに配信） * AM1.5h（10:00-11:30）、PM1.5h（13:30-15:00） * 旅程（2泊。事務局と調整）	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	意識醸成の次のステップとして、DX推進していく人材を育成するために、苫小牧市では、どのような取組を具体的にやっていくのがよいのか。 ただ、検討の参考資料として、浜松市のデジタル人材の育成・確保策の資料をいただきました。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
	1月17日に管理職に向けたDX研修を実施する。	
4-4. 事業の最終的な目指す姿	組織全体にDXマインドが定着し、変革を行っていくのが当たり前な風土が醸成されること	

5. 報告書に関する地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可 https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

掲載許可 掲載可

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG）」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

